

効果的な施策を展開するための考え方の点検ツール

～地域包括ケアシステムの深化・推進に向けて～

点検ツールのねらいや活用方法、効果的な活用場面

2024年8月
(株)日本総合研究所

点検ツールのねらいや活用方法

なぜいま、地域包括ケアシステムの「機能性の点検」なのか？

1 地域のビジョンの共有と分野横断的・統合的なマネジメントへ

地域のビジョンや目標を改めて検討する

- これまで、高齢者・介護部局が中心となって、地域包括ケアシステムの構築に向けた取り組みが行われてきました。しかし、これからの少子高齢化のさらなる進展や地域ごとの事情も踏まえると、各分野・領域を超えて共有できるよう、全体最適化の観点から機能性を高める取り組みが不可欠です。
- もとより地域包括ケアシステムを構成する社会資源や体制等は、それらが相互に連携することで大きな効果が期待されるものです。地域包括ケアシステム構築の節目となる2025年を迎えようとする現在、「わがまちの地域包括ケアシステムとは」を改めて見直し、地域のビジョンや目標を再度明確化することが大切です。

2 資源や事業の整備から、機能性の発揮への転換

全ての社会資源や体制等を最適化し、効率的に繋ぐことが重要

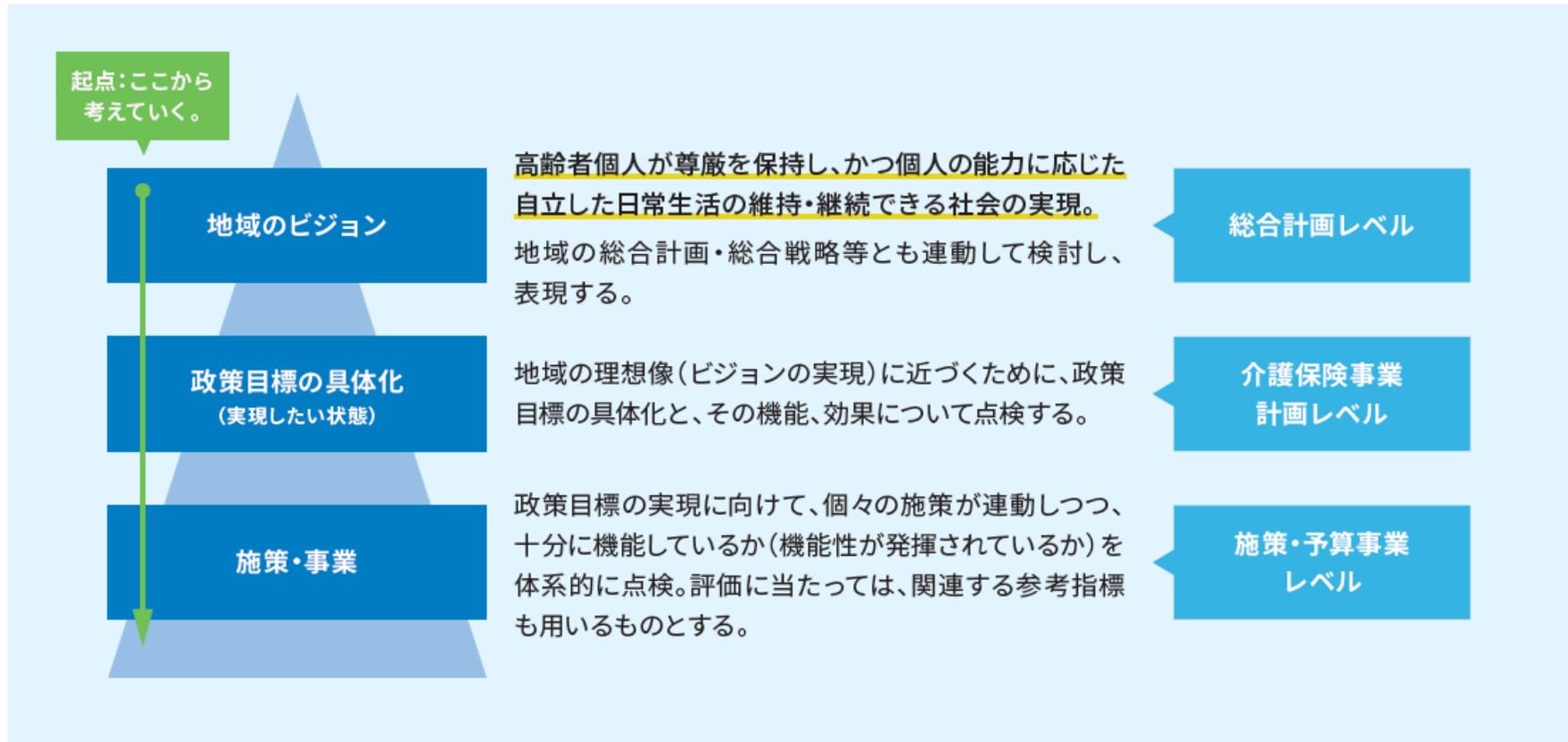
- 社会資源の整備のみならず、既に地域にある社会資源や体制を工夫して改善し、その機能性を高めることこそが、地域づくりの基本的な方向となります。このため、『保険者』としてだけでなく、全庁的な体制を含めた、『自治体』としての状況の点検・評価が重要です。
- したがって、地域の総合計画等との整合性を図りながら、「ビジョン」を起点に、関係部局とも連携の上、政策・施策・事業のあり方を考え、ひとつひとつの取り組みの成果が上位の目標にどのように貢献しているか、さらに効果的なものとするにはどのような工夫があり得るかを振り返る必要があります。
- 本ツールは、上位目標に照らして施策・事業の位置づけを振り返り、施策・事業を「機能性(=目標とすべき状態の実現に資するように機能しているか)」に着目して見直す視点を提供します。

なぜいま、地域包括ケアシステムの「機能性の点検」なのか？

「ビジョン」を起点に施策・事業のあり方を考え、

ひとつひとつの取組の成果が上位の目標にどのように貢献したかを振り返る。

「機能」面で目標とすべき状態の実現に資しているかを分解して点検する



これまでの検討経緯

前述の背景にもとづき、令和3年度に「点検ツール」をとりまとめた。
令和4年度には全国11か所の自治体で実証を行い、ブラッシュアップし、
令和5年度には効果的な活用ポイント・市町村による活用事例をとりまとめた。

令和3年度

点検の考え方と枠組み、参考となる指標等を整理した「点検ツール」をとりまとめて公表



令和4年度

全国11か所の自治体で実証
⇒点検ツールのブラッシュアップを実施

各地域でご活用いただけるよう以下を公開



令和5年度

地域包括ケアシステムの構築状況の
振り返り・点検にあたり、点検ツールが
特に有効に機能する場面や活用事例を整理

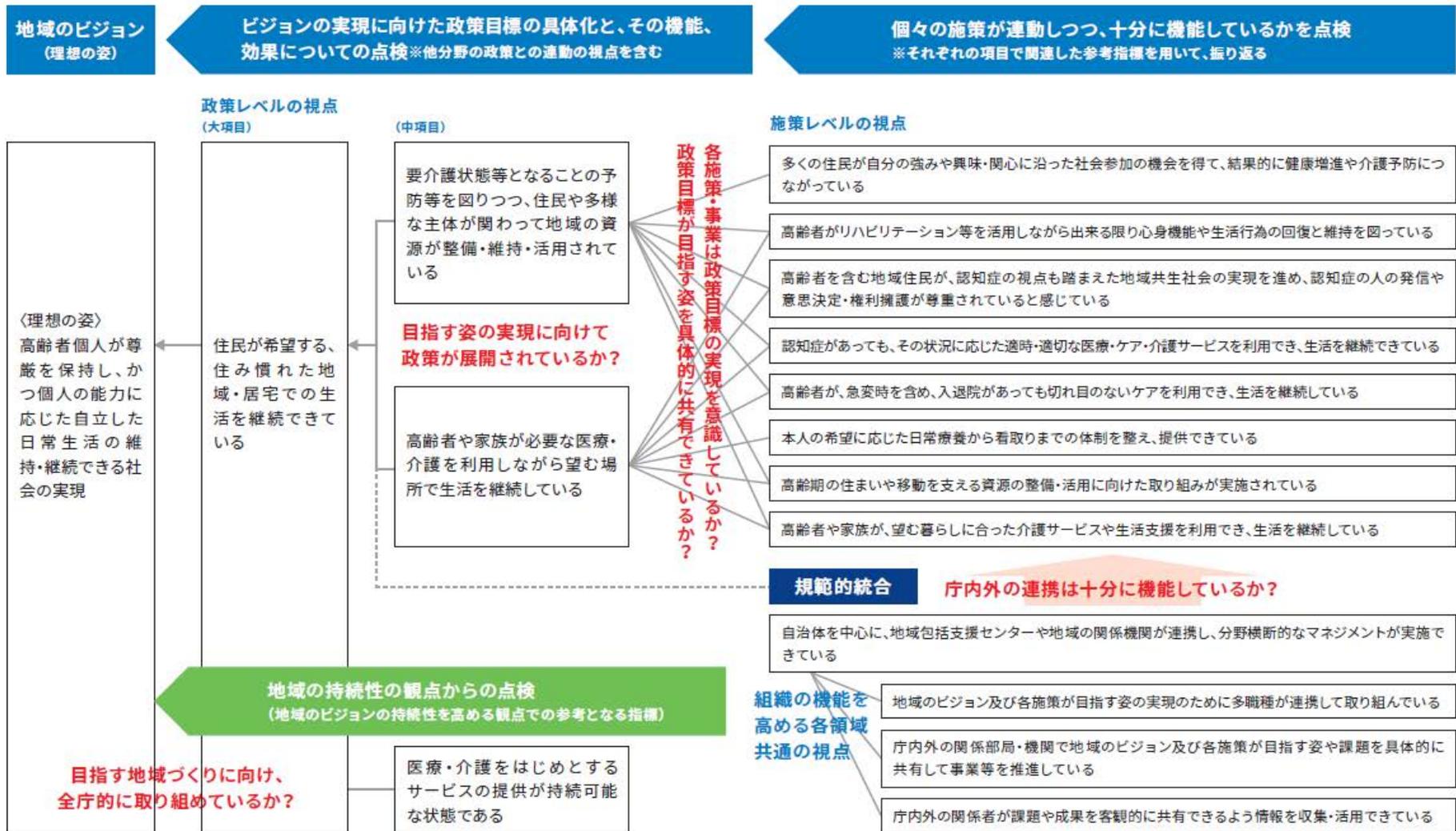


目標に対して手段が合っているか、手段が十分な効果をあげているかを、実施できていない施策・事業を洗い出すチェックリストの考え方ではなく、機能性の観点で点検するもの

- この点検ツールは、各市町村が、地域包括ケアシステムの構築という「目標」の達成に向けて、介護・福祉分野やそれ以外の資源を活用した施策という「手段」が十分な効果をあげているかを、できる限り客観的な指標も参照しつつ点検するためのツールです。
- 地域資源は有限であることから、この点検ツールは、評価指標の全ての項目が満たされているかを見るためのものとして設計したものではありません。同様に、介護保険分野の資源の整備状況の多寡の確認を直接の目的としたものでもありません。
- 本ツールは、「地域のビジョン」(＝高齢者個人が尊厳を保持し、かつ個人の能力に応じた自立した日常生活の維持・継続できる社会の実現)という「目標」の実現に向けて、その下位に位置付けられた施策や事業という「手段」による取組が十分に成果を挙げ、貢献しているかを振り返り、施策や事業について取り組むべき課題を明らかにしたり、優先順位を検討する際の視点を提供することを目的としています。
- 点検の結果、成果が出ていない、成果に貢献しない施策等は、優先的に見直すことが必要です。同じ成果を挙げることを目的とした手段の中で、より効率性の高い取組に重点化することも考えられます。
- 本ツールは、住まい・医療・介護・予防・生活支援といった個別の施策に位置付けられた事業取組が十分に連携され、「機能性」(＝目標とすべき状態の実現に資するように機能しているか)の観点から、施策の展開をより効果的なものとするための考え方の点検に役立てて頂けるものとしてとりまとめたものです。

点検の枠組みと視点

本ツールが前提とする点検の枠組みと視点は以下の通り。



本ツールによる点検の流れ

本ツールを利用した点検の流れは以下の通り。

点検ツール本体は、以下の流れに沿って、担当者や庁内関係者がそれぞれ検討結果を記入・共有できるような形式となっている。

1 | 視点に関する現在の取り組みの洗い出し

✓ この視点に関する現在実施している取り組みを洗い出す

2 | 視点に関連した目指す姿の振り返り

✓ この視点に関して、既存の(上位)計画で位置付けられている目指す姿を振り返る

3 | 目指す姿の実現状況の仮評価

- これまでの結果、地域の強み
- 実現できていない要因の検討

✓ 目指す姿の実現に向けた、現時点での実現状況を「仮評価」する

4 | 解決すべき要因の検討(仮の絞り込み)

✓ 目指す姿に向けてさらに推進するうえで解決すべき要因(仮説)を検討し、列記する

5 | 知りたいことの洗い出し、利用可能な情報の収集・整理

✓ まずは知りたいことを洗い出し、さらに利用可能な情報を収集・整理

6 | 確認結果を踏まえた今後の取り組みの検討

- 取り組みをさらに良くするための工夫
(事業の組み立ての見直し、事業実施方法の工夫など)
- 庁内連携や情報の収集・活用など体制等の改善方策

✓ 上記の確認結果を踏まえ、施策の展開をより効果的なものとするための工夫や見直しをまとめる

➡ 次の施策の検討に反映・活用

関係者とともに適宜、3〜5を繰り返す

点検ツールは、下記のように、各自治体での点検作業に際して、それぞれ入力・編集できるような形式(電子ファイル)で提供。担当者だけでなく、庁内の関係者で情報を共有しながら活用が可能。

点検ツールのイメージ(抜粋)と特徴

点検の視点やその解説を、各シートに分かりやすく記載

社会参加・介護予防

この視点の概要

この視点に関する解説

点検項目

1. この視点に関連して現在行っている取り組みを洗い出す

2. この視点について、目指す姿がどのようなものかを振り返る

3. 目指す姿の実現状況を仮で評価する

4. 解決すべきと考えられる要因を選ぶ

点検の視点に沿った点検結果の記入欄を用意

一部に選択肢形式を設けるなど、記入しやすい様式

記入にあたっての解説や参考情報を表示する機能を組み込み

《解説》表現の例

《解説》表現の例や記入時の参考文庫

点検ツールの効果的な活用場面

本ツールの活用メリット

本ツールを活用するメリット

- これまでも事業レベルの評価は行われてきました。一方で、施策・事業ごとの評価を意識しすぎるあまり、縦割りに陥ってしまう難しさもあります。
- 本ツールを活用することで地域のビジョンに照らして施策が何を目指していると関連する事業等がどのように位置づけているのかを点検し、施策をより効果的に展開するために、今後どのような工夫や見直しが考えられるかを明らかにできます。
- また、点検ツール(様式)を活用することで、目指す姿や関連する現在の取り組み、今後の工夫などを庁内外の関係者とともに共有・検討しやすくすることができます。

本ツールを活用していただきたい場面

- 本ツールは、上位目標に照らして施策の位置づけを振り返り、より効果的に展開できるようなものとなっているかを点検するものです。
- したがって、これまでの施策を点検して新たな施策の展開を組み立てる場面で特にご活用いただくことを想定しています。

施策・事業の振り返りや新規立案でよくある悩み

普段担当する事業が、上位目標に照らしてどのように位置づけられるかを考えるのが難しい・・・



保険者機能指標などの結果をどう解釈して、次の施策・事業を組み立てれば良いか分からない・・・



本ツールの
活用により

「そもそも何のため」の事業だったかを確認し、事業で解決すべき課題や目標、他の事業との連携の視点を得られる



「なぜ、何のために」新たな施策・事業を組み立てるのかを、理事者等に対して、体系的に説明できる視点を得られる



厚生労働省では、令和4年度から、市町村における地域包括ケアシステムの構築に向けて、①有識者による市町村向け研修や②総合事業の実施に課題を抱える市町村への伴走的支援等を行う「地域づくり加速化事業」を展開している。

拡充
地域づくり加速化事業
老健局認知症施策・地域介護推進課
(内線3982)

1 事業の目的

令和6年度当初予算案 89百万円（1.0億円）※()内は前年度当初予算額

- 団塊世代（1947～1949年生）が全員75歳以上を迎える2025年に向けて地域包括ケアシステムの構築を図るため、市町村の地域づくり促進のための支援パターンに応じた支援パッケージを活用し、①有識者による市町村向け研修（全国・ブロック別）や②個別協議を実施しているなど総合事業の実施に課題を抱える市町村への伴走的支援の実施等を行ってきたところ。
- 令和6年度においては、引き続き伴走的支援の実施を図りつつ、以下の内容の充実を図る。
 - ①今後、こうした伴走的支援を地域に根差した形で展開していくため、引き続き、全国8か所の地方厚生(支)局主導による支援を行うとともに地域で活動するアドバイザーを養成するなど、**地域レベルでの取組を一層促進**していく。
 - ②また、令和4年12月の介護保険部会意見書で、第9期計画期間を通じて総合事業の充実に集中的に取り組むことが適当であり、その際、地域の受け皿整備のため、生活支援体制整備事業を一層促進することとされていることを踏まえ、第9期を見据え、**生活支援体制整備事業を更に促進するためのプラットフォームの構築（全国シンポジウムの開催含む）**を図る。

2 事業の概要・スキーム

1. 地域包括ケアの推進を図るため、以下の事業により市町村を支援する。

- ① 地方厚生(支)局主導による支援パッケージを活用した伴走的支援の実施（全国24か所）
・地方厚生(支)局・都道府県と連携し、市町村を支援する地域の有識者・実践者の支援スキル向上に資する研修を併せて実施【拡充】
- ② 自治体向け研修の実施（各地方厚生(支)局ブロックごと）
- ③ 支援パッケージ^(注)の改訂など地域づくりに資するツールの充実
(注) 市町村等が地域包括ケアを進める際に生じる様々な課題を解決するための実施方法やポイントをまとめたもの。

2. 全国の生活支援コーディネーターや協議体等がつながるためのプラットフォーム（PF）を構築【新規】

<事業イメージ>



3 実施主体等

【実施主体】

- 国から民間事業者へ委託

国 → 受託事業者（シンクタンク等）

【補助率】

- 国10/10

（実績）
令和4年度伴走支援を行った自治体 24自治体

出所：厚生労働省関東信越厚生局HP「地域づくり加速化事業」

点検ツールのオススメ活用場面

1

委託先との 認識共有

- 地域包括支援センターや社会福祉協議会等、個別の施策・事業を委託している法人等とビジョンを共有し、ビジョンにもとづく取組を推進していく際の目線合わせに活用できます。
- また、庁内他部署との横断的な検討や、多職種による議論の場での活用も効果的です。



委託先との認識共有

2

計画・事業の 振り返り・検討

- 介護保険事業計画を「ビジョン型」とするために、これまでの事業計画の達成状況や次期計画で取り組むべき課題の洗い出し等、中長期的な見直しに活用することができます。
- また、個別の施策・事業の目指す姿や、その施策・事業の中で特に重視すべき課題を短期的に検討していく際に効果的です。



計画・事業の
振り返り・検討

3

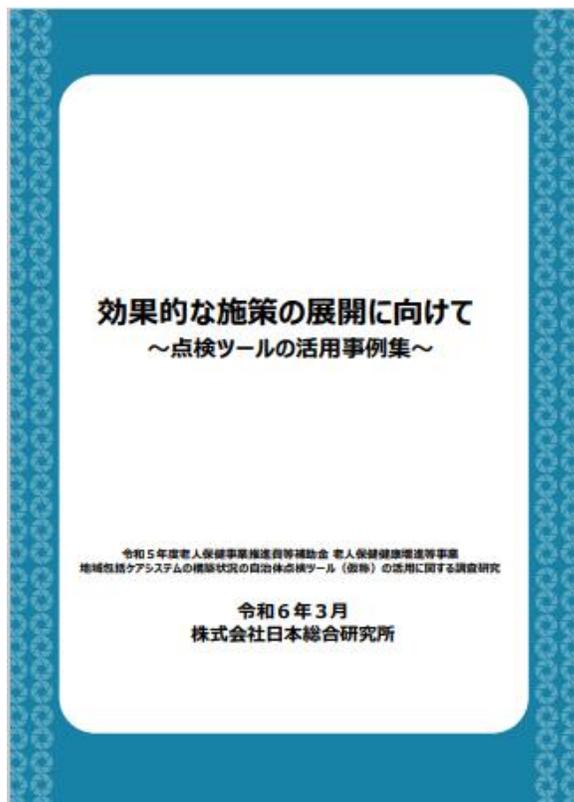
新任者の理解促進

- 人事異動により前任者から引き継いだ施策・事業の全体像やその位置づけを理解する際に活用することができます。
- また、新しく着任する職員に対して事業の目的や全体像を説明する際に効果的です。



新任者の理解促進

令和5年度に作成した事例集において、全6市町村の取組を紹介している。



北海道北見市

- 委託先が主導した会議体において、「自分が市長になったつもりで」点検を行い、見直しの視点を整理

熊本県山都町

- 全ての関係部署とともに検討し、新たな施策の展開につなげる



宮城県美里町

- 職員同士による度重なる議論をふまえて、「ありがたい姿」を明確化

神奈川県横須賀市

- トップマネジメント層を巻き込み、8課が共通認識を持ちながら点検・振り返りを実施

熊本県御船町

- 地域包括ケアシステムを担う関係課とのワークショップを通じて施策体系を再構築



北海道登別市

- 新たに着任した職員が、計画を策定するために必要な視点を点検ツールから学んだ

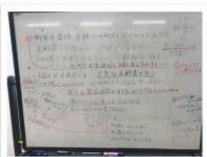
市町村ごとに、点検・振り返りにおける取組のポイントや流れ、関わった人や機関、本ツールを活用したきっかけや活用したことに対する担当者からの声を掲載している。

各市町村の紹介内容

宮城県美里町

職員同士による度重なる議論をふまえて、「ありたい姿」を明確化

- 宮城県美里町では、第9期計画の策定にあたり、点検ツールを活用した振り返りを実施。点検を進める中で、そもそも「美里町のありたい姿」について、職員だけではなく、庁内外の関係者とも話し合いがあまり出来ていない状況だと気付いた。
- まずは、長寿支援課の職員による理解を深め、「ありたい姿」の議論を進めるべく、勉強会やグループワークを繰り返し行い、その結果や過程を策定委員会に提示した。
- そして、庁内だけではなく、ケアマネジャーや介護事業者等の庁外の関係者との議論をとおして、「美里町のありたい姿」を共有するとともに、計画策定や個別施策・事業の実施方針の検討につなげた。



「どんなまちにしたいか」を職員同士で議論



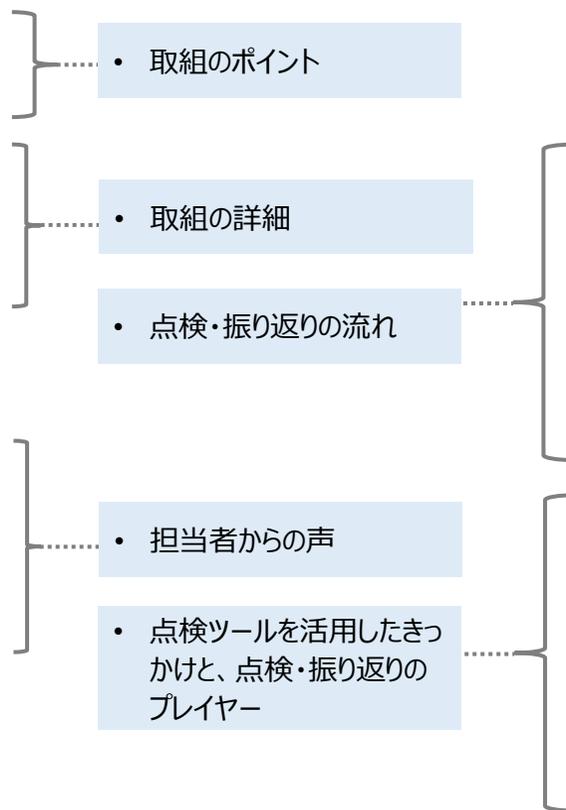
課内でのグループワーク

これまでの事業の中身を話すことが多かった。点検ツールを活用することで、事業から一旦離れて目標や効果、そもそもどうあると良いかという話し合いができて良かった。

職員から「こういう町になってほしい」ということを直接聞くことができた。一人ひとりがよく考えているのを実感し、彼らの意見を取り入れた計画を作りたいと思った。

DATA

人口 ▶ 23,241人 ※令和5年10月1日住民基本台帳人口
 高齢化率 ▶ 36.9% ※令和5年10月1日住民基本台帳人口
 面積 ▶ 74.99 km²
 担当部署 ▶ 長寿支援課 包括ケア係



点検・振り返りの「あゆみ」

包括ケア係の担当がまずはシートを記入してみた

- 全シートの記入が難しかったため、「リハビリ」「社会参加」のテーマに限り、シートへ記入。
- 点検ツールへの記入を進めていくうちに、課の中で「美里町をどんな町にしていきたいか」を共有しない、ビジョン型の計画策定が難しいことに気づいた。

課内で勉強会・グループワークを開催し、職員たちの思いを捉えた

- まず、「計画策定で大事にすること」についての勉強会を開催。次に、各職員が「美里町のありたい姿」を自由に話す場を設け、その2つの結果をまとめ、「どうしてそういう意見が出たのか」を考えるグループワークを行った。「これが大事に思ったのはこういう理由だよな」、「これっていいよね」といった話をおして、職員たちの思いを捉える試みを行った。

グループワーク等の過程や点検結果を策定委員会に共有し、賛同を得た

- 職員が考えた計画の中心となる理念的なビジョンやその策定過程を策定委員会に共有した。委員からも「ぜひこれを進めてほしい」といった反応を得た。

庁内外のケアマネジャーや介護事業者等との振り返りを実施

- 「9期計画を考えよう」というテーマで、庁内外のケアマネジャー、介護事業者、薬局などの振り返りを実施。※どのような意見があったかを追記※
- 計画の策定だけではなく、その後の個別施策・事業の運営に関しても、「ありたい姿」にもとづき、できることを検討。

POINT
職員たちの思いにもとづく「ありたい姿」、庁内外の関係者に共有

活用の「きっかけ」

- 「第9期介護保険事業計画を何とかしたい」という思いから、令和4年度モデル事業に手上げし、点検ツールを活用した振り返りを実施し始めた。
- 点検ツールを活用することで、現在実施している事業や計画策定に足りないところに気づくというきっかけとなった。

「だれ」と取り組んだか

- 長寿支援課の組織として直営で設置している地域包括支援センター（包括ケア係）が中心となり、生活支援体制整備事業を委託している社会福祉協議会とともに、点検を進めた。
- 点検結果は策定委員会や介護事業者などの庁外の関係者にも共有しながら、計画策定に向けた議論を深めていった。

委託先との認識共有に活用した事例：北海道北見市

- 北海道北見市では、医療・介護連携支援センターのコーディネーターの発案で、地域包括支援センターの職員や認知症地域支援推進員、生活支援コーディネーターを交えた連絡会議を立ち上げた。
- 「自分が北見市長になったつもりで」点検を行い、実施事業の見直しの視点を整理した。

北海道北見市

委託先が主導した会議体において、
「自分が市長になったつもりで」点検を行い、見直しの視点を整理

- 地域支援事業を効果的に実施するため、医療・介護連携支援センター（在宅医療介護連携推進事業）のコーディネーターの発案のもと、地域包括支援センター職員・認知症地域支援推進員・生活支援コーディネーターを交えた連絡会議を立ち上げた。
- 「地域の目指す姿」に対して、現在実施している地域包括支援センターの事業について、「実現していない要因」「これまでの成果」「今後活かせること」を議論し、今後の事業推進にあたっての見直しの視点を整理した。



地域包括支援センター職員等を対象とした研修会



担当者の声

DATA

人口	▶112,041人	※令和5年9月30日住民基本台帳人口
高齢化率	▶34.5%	※令和5年9月30日住民基本台帳人口
面積	▶1427.4 km ²	
担当部署	▶保健福祉部 地域包括ケア推進担当	

点検・振り返りの「あゆみ」

「自分が北見市長になったつもりで」をコンセプトに、地域包括支援センター担当者が点検ツールのシートに記入



POINT
委託先が主体となって活用

- 地域支援事業を効果的に実施するために設置した連絡会議における議論の材料として、点検ツールを活用。
- まずは、地域包括支援センターの担当者が、4シート（社会参加、生活支援、認知症支援、サービス整備）の中から1つを選び記入。

連絡会議の場で、記入したシートをもとにワークショップを開催

- 記入したシートの内容を各担当者から発表のうえ、「地域の目指す姿」に対する取組について、「実現していない要因」、「これまでの成果」、「今後活かせること」をグループで話し合った。
- 連絡会議は民間主導の実施だが、市担当者もオブザーバーとして参加。

地域包括支援センターの実施する事業の見直しの視点を整理

- ワークショップの実施を通して、課題認識の共有及び既存事業の振り返りが完了。それらの結果を踏まえて、各地域包括支援センターの実施する事業の見直しの視点を整理し、今後の事業推進に活用予定。

活用の「きっかけ」

- 地域支援事業を効果的に実施するため、医療・介護連携支援センター（在宅医療介護連携推進事業）のコーディネーターの発案で、市内7つの地域包括支援センター（全て委託）の職員と認知症地域支援推進員、生活支援コーディネーターを交えた連絡会議を、令和5年度から立ち上げた。
- 連絡会議では、地域包括支援センターの取組をより効果的なものとするため、職員の事業に対する考え方のブラッシュアップと市との課題認識の共有を目的とし、議論に際して点検ツールを活用した。

「だれ」と取り組んだか

- 医療・介護連携支援センターが中心となり、市がオブザーバーとして参加する形で、点検を進めた。
- 元々、医療・介護連携支援センターと地域包括支援センターはあまり面識がなかったものの、グループワーク等を行う中で積極的な意見交換ができ、市・地域包括支援センターの日頃の連携の強化にもつながっている。

計画・事業の振り返り・検討に活用した事例：神奈川県横須賀市

- 神奈川県横須賀市では、第9期介護保険事業計画の策定にあたり、トップマネジメント層を巻き込み、総勢8課54名で構成されるワーキンググループを組成した。
- ワーキンググループでは、「地域包括ケアとは何か」、「点検ツールの活用により何をを目指すか」等の認識共有をした上で点検を行い、重点的に対策すべき課題を計画に反映した。

神奈川県横須賀市

トップマネジメント層を巻き込み、
8課が共通認識を持ちながら点検・振り返りを実施

- ◆ 神奈川県横須賀市では、組織改編により計画策定経験のない部署が策定業務を行うことになったことや、ビジョン型の計画のイメージが掴みづらかったこと、地域包括ケアシステムの浸透度合いを測る指標がなかったことから、点検ツールを活用して検討することにした。
- ◆ トップマネジメント層を巻き込むことから始め、その後、他部・他課を含めた総勢8課54名で構成される12個のワーキンググループを組成し、分野ごとの議論を深めていった。
- ◆ 点検・振り返りにより抽出した課題は計画に反映することができ、また、点検・振り返りを共同して実施することで、他部署との関係性の構築にもつながった。



担当者の声

「事務職に加えて様々な専門職が参加した。それぞれの参加者が自分ごととして事業を捉え、顔の見える関係を築くことができました。」

「以前「ビジョン型の計画を作る」ための意見交換会を開催した時は意見が出にくかったが、「点検ツールに記入すること」で第一歩を踏み出しやすかった。」

DATA

人口 ▶384,663人 ※令和5年10月1日住民基本台帳人口
 高齢化率 ▶32.5% ※令和5年10月1日住民基本台帳人口
 面積 ▶100.8 km²
 担当部署 ▶民生局 福祉こども部 介護保険課

点検・振り返りの「あゆみ」

トップマネジメント層との認識共有

- ・第9期介護保険事業計画の策定にあたり、関係する多くの部署に地域包括ケアシステムの構築に向けた計画策定を「自分事」として捉えてもらうため、トップマネジメント層（部課長級）を巻き込むところから始めた。



POINT
 トップマネジメント層を序盤から巻き込む

他部・他課と協働のワーキンググループによる検討

- ・他部・他課を含めて8つの課からワークシートに関係するメンバーを集め、12個のワーキンググループを組成して議論を深めた。初めに「何のために行うか」、「地域包括ケアとは何か」、「点検ツールの活用を通して何をを目指すか」の認識を共有したことで、他部署との連携も円滑に進めることができた。

振り返りで把握した課題を第9期介護保険事業計画に反映

- ・点検ツールの活用や保険者機能強化推進交付金等の指標の確認を通じて把握した課題を、市として重点的に対策すべき課題として計画に反映した。

今後の展望

- 計画期間における点検・振り返りの流れを醸成
- ・計画期間中に点検ツールを活用した振り返りを行い、次期計画策定に活かしていきたい。

活用の「きっかけ」

- ・今までは課単体で事業を考えることが多かったが、保健と予防の一体化や、総合事業のデザインなどの動きを踏まえ、どうやって課をまたいで考えたらよいか関心を持っていた。
- ・担当者が研修に参加したり、点検ツールの話を聞いたりする中で、庁内横断での取り組みを進める機会として点検ツールを活用してみようと考え、トップマネジメント層に提案した。

「だれ」と取り組んだか

- ・計画の主管課である介護保険課が中心となり、関係課に呼びかけて、12分野のワーキンググループを組成した。
- ・各分野で複数の職位・職種が参加し、8課から54名が集まった。事務職に加え、医師や保健師、歯科衛生士、栄養士などの専門職も参加した。

新任者の理解促進に活用した事例：北海道登別市

- 北海道登別市では、新たに着任した職員が中心となり、第9期介護保険事業計画の策定に向けた準備を進める必要があり、既存事業の振り返りや課題の洗い出し等にあたって、点検ツールを活用した。

北海道登別市

新たに着任した職員が、計画を策定するために必要な視点を点検ツールから学んだ

- ◆ 計画策定年度に、主たる計画策定担当者が全員異動してしまつた。新たに着任した職員が計画策定に必要な視点を身に着けるために、点検ツールを活用することになった。
- ◆ 点検ツールへの記入を進める中で、「現場担当者や関係者と協議する場の重要性」や「地域支援事業を一体的な運営に向けた医療介護連携のあり方の検討の必要性」や「目指す姿に向けて必要な視pointsのヒントを得ることができた。



職員同士での協議

地域包括ケアシステムの深化・推進に向けた目指すべき姿の実現に向け、第10期計画策定にあたっては、地域住民や関係機関との協議に点検ツールを活用するなど、市全体、地域全体でよりよい登別市を作り上げていけるよう、今後も取り組んでいきたい。

計画策定に向けた目指すべき施策の方向性などの検討にあたり、点検ツールを活用することで、事業ごとの課題や現状について整理することができた。

担当者の声

DATA

人口 ▶44,564人 ※令和5年9月30日住民基本台帳人口

高齢化率 ▶37.9% ※令和5年9月30日住民基本台帳人口

面積 ▶212.21 km²

担当部署 ▶保健福祉部 高齢・介護グループ、健康長寿グループ

点検・振り返りの「あゆみ」

新たに着任した職員が中心となり、第9期計画策定に向けた準備を進めることに

- ・第9期介護保険事業計画の策定年度に、計画策定の主な担当者が人事異動により、新たに着任した職員のみで、計画策定に向けた準備を進めることになった。



POINT

新たに着任した職員による振り返りに活用

まずは、担当部署が全シートの記入を試みた

- ・既存事業の振り返りや課題の洗い出し等に点検ツールが有効だと思ひ、計画策定を担当する2部署（高齢・介護グループと健康長寿グループ）の担当者が全てのシートに記入してみた。

計画策定・事業推進にあたって必要な視点を整理

- ・点検ツールへの記入を通して、「現場担当者や関係者と協議する場の重要性」や「地域支援事業を一体的な運営に向けた医療介護連携のあり方の検討の必要性」に気付いた。
- ・第10期介護保険事業計画の策定や、他部署とコミュニケーションツールとして、点検ツールの視点を活用していきたいと考えている。

活用の「きっかけ」

- ・年度替わりの人事異動で、第9期介護保険事業計画の策定を担当する2つの部署の総括主幹・主査が全員異動してしまつた。
- ・計画策定に関する知識を習得するため、伴走支援事業に手挙げし、課題の洗い出し等に点検ツールを活用しようと考えた。

「だれ」と取り組んだか

- ・新たに着任した高齢・介護グループ、健康長寿グループの担当者により、点検を実施した。

■ 点検ツールに関する情報が集約されている「まとめページ」

- 点検ツール本体（excel）や過去の説明会動画、活用の手引き等の情報をまとめています
https://www.jri.co.jp/service/special/content11/corner113/chk_tool/

■ 過去のセミナー動画等

- 2023年8月8日（火）開催 実施手順と記入例の紹介セミナー
<https://www.youtube.com/watch?v=g01qiizW55w>
- 2023年6月27日（火）開催 第9期計画策定に向けた活用セミナー
https://www.youtube.com/watch?v=XdfikQG_rSQ
- 2023年4月26日（水）開催 点検ツールの説明会
<https://www.youtube.com/watch?v=rMhoBTmyZic>
- 点検ツール書き方解説動画
<https://www.youtube.com/watch?v=xiytmSEGxFU>
- 点検ツール概要解説動画
<https://www.youtube.com/watch?v=RbnDAyXZd4I>